

音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力を高める中学校音楽科指導の工夫 — 感じ取ったことや気付いたことを整理する思考ツールを取り入れた学習活動を通して —

東広島市立八本松中学校 山口 香織

研究の要約

本研究は、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力を高める学習指導の工夫について考察したものである。文献研究から、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力を、知覚・感受したことを基に、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて解釈し、根拠をもって価値判断する批評の能力と定義した。また、この能力を高めるためには、感じ取ったことや気付いたことを整理する思考ツールを取り入れた学習活動を行うことが有効であると考えた。この学習活動を、総合芸術を鑑賞する過程に取り入れ研究授業を行った結果、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力を高めることができた。このことから、感じ取ったことや気付いたことを整理する思考ツールを取り入れた学習活動は、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力を高めることに有効であることが明らかになった。

キーワード：思考ツール

I 主題設定の理由

1 特定の課題に関する調査における課題

国立教育政策研究所の特定の課題に関する調査（中学校音楽）調査結果（平成22年）から、音楽と他の芸術とのかかわりに関する問題において、58%の生徒が、総合的な芸術における音楽と他の芸術を関連付けて理解することに課題があるということが分かった。さらに、望ましい回答である妥当かつ明確に記述しているものは19.8%に留まっており、同研究所は、「総合的な芸術における音楽と他の芸術とのかかわりを捉え、それを言葉で説明することに課題がある。」¹⁾と考察している。この「音楽と他の芸術とのかかわりに関する問題」は、中学校学習指導要領（平成22年）の音楽第2学年及び第3学年の内容「B鑑賞」（1）の指導事項イに関連するものである。これらのことから、鑑賞の授業における、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞することについて指導の改善が求められていると考える。

2 研究の方向性

国立教育政策研究所は、「音楽と他の芸術とのかかわりに関する問題」の分析から、「音楽と視覚的要素や物語の展開などが相互に与える効果について考え、解釈したことを自分なりに言葉で表すこと

ができるような指導を工夫すること。」²⁾と述べている。萬司（2009）は、指導事項イでは「音楽の特徴」を感じ取り、その特徴が「他の芸術」とどのように関連しているか思考・判断し、視聴することや言葉で表すことを含み「鑑賞すること」と示しており、第2学年及び第3学年においては、第1学年の学習の上に立ち、音楽の特徴を他の芸術と関連付け、その関連を適切に理解できるように指導することが求められていると述べている⁽¹⁾。西園芳信・伊野義博（2010）らは、指導事項イでは音楽の特徴を聴き捉えることと他の芸術とのかかわりを知ることが、それぞれ別になってはならず、相互にかかわる学習を設定することが求められていると述べている⁽²⁾。

これらのことから、本研究では、音楽の特徴を感じ取り、音楽の特徴が他の芸術とどのように関連しているか考え、解釈したことを言葉で表す学習指導の工夫を考察する。

II 研究の基本的な考え方

1 音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力

(1) 音楽の特徴とは

小原光一・渡邊學而（平成20年）は、「『音楽の特徴』とは、学習指導要領（平成20年3月）に示さ

れた「共通事項」にかかわる内容であり、音楽の学習のベースになると考える。」³⁾と述べている。表1に中学校学習指導要領「共通事項」(1)指導事項アを示す。萬は、音楽の特徴とは、音楽を形づくっている要素や構造から聴き捉え、曲想を感じ取りながら明らかにしていくものであると述べている⁽³⁾。また、曲想について「音楽を形づくっている要素や構造の働きから生み出される、その音楽固有の表情や味わいなどのこと。」⁴⁾と整理している。これらのことから、音楽の特徴とは、音楽を形づくっている要素や構造とそれらの働きが生み出すその音楽固有の特質や雰囲気と捉えることができる。

表1 「共通事項」(1)指導事項ア

「共通事項」 (1) 指導事項ア	音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受すること。
------------------------	---

(2) 他の芸術とのかかわりから成立している音楽とは

中学校学習指導要領解説音楽編(平成20年、以下「解説」とする。)には、「音楽は、その背景となる文化・歴史や他の芸術から直接間接に影響を受けており、それが音楽の特徴になって表れている。また、我が国や諸外国の多くの音楽が、文学、演劇、舞踊、美術などとかかわって成立している。」⁵⁾と述べられている。他の芸術とのかかわりから成立している音楽として、「解説」には、歌舞伎、能楽、オペラ、バレエなどの総合芸術が例示されている。

(3) 音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力とは

大熊信彦(平成22年)は、『B鑑賞』の学習は、「共通事項」を支えとしながら、音楽を解釈し、価値などを考え、判断して、よさや美しさなどを味わって聴くことが求められている。」⁶⁾と述べている。

宮下俊也(2013)は、「鑑賞の能力」とは、共通事項に示されている音楽の要素や要素同士の関連を知覚・感受し、楽曲全体の曲想や他の芸術との関連付けを理解し、自分にとってのその音楽の価値や意味を見つけ出し、それを言葉などで他者に表すことであると述べている⁽⁴⁾。西園芳信(2009)は「鑑賞の能力」は、音楽の要素や要素同士の関連を知覚・感受し、それと楽曲全体の構造や曲想とのかかわりを感じ取って聴き、音楽用語等を使いながらそれを言葉で説明したり、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し、音楽の多様性を感じ取ったりすることのできる能力と、根拠をもって価値判断する批評の

能力であると述べている⁽⁵⁾。

これらのことから、本研究における音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力とは、知覚・感受したことを基に、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて解釈し、根拠をもって価値判断する批評の能力として研究を進める。

2 感じ取ったことや気付いたことを整理する思考ツールを取り入れた学習活動

(1) 感じ取ったことや気付いたこととは

小原光一(2003)は、鑑賞指導における基本的な考えとして、鑑賞指導の学習過程の構成について示している。表2にまとめたものを示す。

表2 鑑賞指導の学習過程の構成⁽⁶⁾

段階	生徒の具体的な活動
感じ取る段階 (曲の気分、曲想)	「何だろう」「おもしろそうだな」というふうに、初めて出会った楽曲の気分(雰囲気)や曲想を感覚的に捉える。
気付きを深める段階 (音楽を特徴付けている諸要素、音色)	最初に聴いた印象を手がかりに、なぜ(どんなところから)そう感じたのかを、音楽を特徴付けている諸要素の働きや楽器の音色と結び付けて考える。
味わう段階 (音楽全体の把握)	音楽の全体がわかり、その細やかな特徴も捉えることができる。最初の段階に比べて音楽が自分に近づき音楽に自分を投入して鑑賞することができる。

感じ取る段階と気付きを深める段階は、「共通事項」(1)指導事項アとの関連が見られる。具体的に、感じ取る段階は、指導事項ア「特質や雰囲気を感受すること」、気付きを深める段階は、指導事項ア「音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚すること」に相当すると考えられる。

以上のことから、本研究における、感じ取ったことは、特質や雰囲気を感受したこととする。また、気付いたことは、感じ取ったことを手がかりに、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚したこととする。

(2) 感じ取ったことや気付いたことを整理することについて

「共通事項」(1)指導事項アに相当する感じ取ったことや気付いたことは、音楽の学習において、全ての生徒に確実に指導することが求められている⁽⁷⁾。その具体的な指導方法として、感じ取ったことや気付いたことについて両方を記述するワークシート等が用いられている⁽⁸⁾。また、表2のとおり鑑賞の学習においては、感じ取ったことを手がかりに、気付いたことと結び付けて音楽の特徴を明らかにする学習が展開されることとなる。

本研究においては、音楽の特徴について、演劇的要素、舞踊的要素、美術的要素、文学的要素など他の芸術の様々な要素とどのように関連しているかを考

えさせる指導の工夫が重要となる。そこで、感じ取ったことや気付いたことを整理する場面において、様々なものの関連付けや関係性を見付けることに有効とされる思考ツールを取り入れた学習活動を行い、音楽の特徴と他の芸術との関連を明確に捉えていく。

(3) 思考ツールとは

三宅喜久子（2012）は、「思考ツールとは、頭の中の情報を書き込むための図形の枠組みです。頭の中にあるイメージや情報を外に出すことを促し、そうして可視化されたものの関係性を見つけやすくしてくれます。あえて頭の使い方に限定をかけることで、思考することを促すのです。」⁷⁾と述べている。また、黒上晴夫（2012）は、「考えるということを、たとえば比べる、分類する、関連付けるなどと具体的にとらえる必要がある。そして、それを実現するためにどういう学習活動をしていけばよいのかというところを指導しなければならない。それを具体的なものとして示したのが、思考ツールだと考えています。」⁸⁾と述べている。

これらのことから、思考ツールとは、頭の中にあるイメージや情報を可視化させ、考えることに限定をかけることで、思考を促していくためのツールと捉える。

(4) 感じ取ったことや気付いたことを整理する思考ツールを取り入れた学習活動の具体について

本研究では、感じ取ったことを手がかりに、その要因となる気付いたことを捉え、音楽の特徴を明ら

かにする学習を展開するため、思考ツールの中からボーン図を用いる。ボーン図について北村拓也（2011）は、「原因と結果の関係を明らかにし、因果関係を明確に表すことのできるツール」⁹⁾と説明している。

図1に思考ツール(ボーン図)を用いたワークシートと学習活動の内容について示す。

音楽を聴いて「力強い曲」と感じ取ったことを結果とし、「ア」に記入する。「力強い」と感じた要因について「小刻みなリズム」「強く演奏される管楽器」など気付いたことを「イ」に記入していく。感じ取ったことや気付いたことを可視化させ、整理していくことで、音楽の特徴を明らかにしていくことができる。さらに、音楽の特徴「ア」の感じ取ったことを結果とし、その要因について演劇的要素・美術的要素など他の芸術を捉え「ウ」に記入していく。このように、音楽の特徴と他の芸術がどのように関連しているか考えていくことで、相互に与える効果について理解することができる。また、ボーン図の図形を応用し、「エ」には学習を通して理解したことを記入する欄、「オ」には批評したこと（以下、批評文とする。）を記入する欄を設けた。

このような思考ツールを取り入れた学習活動を行うことで、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力を高めていくことができると考えられる。

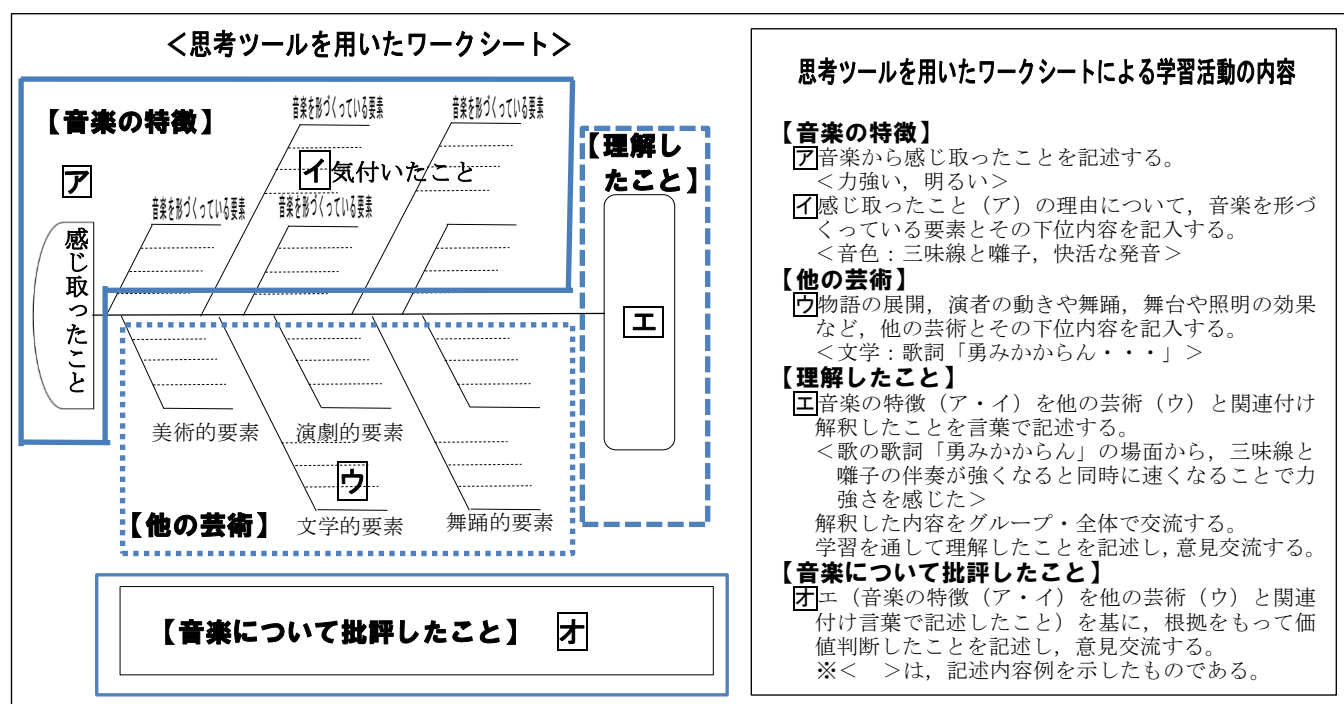


図1 思考ツールを用いたワークシートと学習活動の内容

Ⅲ 研究の仮説及び検証の視点と方法

1 研究の仮説

感じ取ったことや気付いたことを整理する思考ツールを取り入れた学習活動を行えば、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力を高めることができるであろう。

2 検証の視点と方法

表3に検証の視点と方法を示す。

表3 検証の視点と方法

検証の視点	検証の方法
【視点1】 ○音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力を高めることができたか。 ①知覚・感受したことを基に、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて解釈することができたか。 ②根拠をもって価値判断する批評ができたか。	事前・事後テスト 事前・事後アンケート 思考ツールを用いたワークシート
【視点2】 ○感じ取ったことや気付いたことを整理する思考ツールを取り入れた学習活動は、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力を高めることに有効であったか。	事後アンケート

(1) 事前・事後テスト

事前・事後テストでは、総合芸術であるオペラ「魔笛」、歌舞伎「暫」、バレエ「白鳥の湖」⁽⁹⁾の一部分を視聴し、音楽の特徴と他の芸術のかかわりについて記述する。

事前・事後テストは、同じ設問とし、事後テストで使用した映像は、事前テストで扱った総合芸術の異なる場面を視聴する。

図2に事前テストを示す。

事前テスト	3年 組 氏名
<問題>今、鑑賞したような総合芸術において、音楽は他の芸術とどのようにかかわっていますか。あなたの考えを下の語群から言葉を一つ使用して、解答欄に書きなさい。	
美術 演劇 舞踊 文学	
.....	
.....	
.....	
.....	

図2 事前テスト

(2) 事前・事後アンケート

鑑賞における音楽の特徴と他の芸術とのかかわりに関する生徒の意識の変容を把握するため、4段階評定尺度法によるアンケートを行った。事後アンケートには、思考ツールを取り入れた学習活動の有効性に関する生徒の意識を把握するための設問を加えた。

Ⅳ 研究授業について

1 研究授業の内容と計画

- 期 間 平成25年6月25日～平成25年7月3日
- 対 象 所属校第3学年(5学級172人)
- 題材名 「総合芸術の魅力を味わおう」
- 教材曲 第一次 オペラ「アイダ」
第二次 歌舞伎「勧進帳」
- 目 標

総合芸術であるオペラと歌舞伎に関心を持ち、音楽を形づくっている要素や要素同士の働きが生み出す特質や雰囲気の特徴を知覚・感受し、音楽の特徴を文学、演劇、舞踊、美術など他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する。

2 教材について

本研究では、総合芸術オペラ「アイダ」と歌舞伎「勧進帳」を教材として研究授業を行った。この2曲は、中学校学習指導要領(平成元年)の音楽第2学年及び第3学年の共通教材として示されていたものである。また、音楽の特徴と他の芸術のかかわりが捉えやすく、物語の展開について理解しやすいため、生徒が興味をもって鑑賞できる教材であると考えた。本研究では、第二次で鑑賞する歌舞伎「勧進帳」において、検証と分析を行った。生徒が、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて解釈しているかについて分析するため、音楽の特徴、他の芸術の要素と下位内容について分析表を作成した。

表4に分析表を示す。

表4 歌舞伎「勧進帳」の分析表⁽¹⁰⁾

	要素と下位内容
音楽の特徴	(音色) 長唄(三味線、囃子)、打楽器、音色が高くなる、明るく快活な発音 (リズム) 三味線の細かいパッセージ、打楽器の軽快なリズム、拍節的、拍節的でない (速度) 速度の設定や変化、だんだん速くなる、だんだん遅くなる (旋律) リズミカルで軽快、節回し、波打つような旋律、高低の幅が短い (テクスチャ) 唄と三味線、他の楽器との合わせ方 (強弱) 強弱の設定と変化
他の芸術	(文学) 役者の台詞、長唄の歌詞 (美術) 衣装、化粧、背景(松羽目、竹羽目、揚幕、常式幕) (演劇) 役者の動き(所作)、見得、歌舞伎特有のセリフの言い回し (舞踊) 舞踊

3 指導計画（全4時間）

次	学 習 活 動
一	【第1時】 ○オペラが舞台芸術であり、音楽と他の芸術がかわりあっている総合芸術であることを理解する。 ○オペラ「アイダ」の凱旋の合唱を聴き、感じ取ったことや気付いたこと（音楽を形づくっている要素と下位内容）を思考ツールを用いたワークシートに記入し、整理することで音楽の特徴を捉える。 ○凱旋の合唱を映像で視聴し、他の芸術要素を記入し、音楽の特徴と他の芸術がどのようにかわりあっているかを考える。 ○音楽の特徴と他の芸術がかわることでどんな効果が生み出されていたか考え、意見交流する。
	【第2時】 ○オペラ「アイダ」の構成と登場人物の声域について知る。 ○第2幕2場の一場面を鑑賞する。 ○物語の展開に着目し、音楽がどのように効果的に表現されているか考え、意見を交流する。 ○オペラにおける音楽の役割について考え、意見を交流する。 ○再度第2幕2場を鑑賞し、批評文を書く。
二	【第3時】 ○歌舞伎「勧進帳」が舞台芸術であり、音楽と他の芸術がかわりあっている総合芸術であることを理解する。 ○歌舞伎「勧進帳」の「呼び止めと詰め寄せの場面」を視聴し、思考ツールを用いて音楽の特徴が他の芸術とどのようにかわっているか考え、解釈したことを言葉で表す。 ○考えたことをグループ、全体で交流する。 ○音楽の特徴と他の芸術がかわることでどんな効果が生み出されていたか考える。
	【第4時】 ○歌舞伎「勧進帳」の音楽構成、黒御簾音楽、ツケ、衣装、見得について知る。 ○「延年の舞」「飛び六法」を鑑賞する。 ○歌舞伎における音楽の役割について考える。 ○歌舞伎の批評文を書く。 ○オペラと歌舞伎の共通点・相違点について意見を交流する。

第一次では、オペラ「アイダ」を鑑賞する。まず、思考ツールを用いたワークシートの書き方を指導しながら感じ取ったこと、気付いたことを整理することで音楽の特徴を捉えさせ、他の芸術とどのように関連しているのか考えさせていった。次に、文学（物語の展開）に着目させ、物語の内容や登場人物の気持ちなどと一体となって音楽が効果的に表現されていることが理解できるように指導した。また、互いにかかわることで与える効果や音楽の役割について考えさせた。

第二次では、歌舞伎「勧進帳」を鑑賞する。第二次では、第一次で指導した思考ツールを用いたワークシートの書き方を参考に、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて考え、解釈したことを言葉で表し、根拠をもって価値判断したことを自分なりの言葉で批評できるように指導した。

V 研究授業の分析と考察

1 音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力が高まったか

本研究授業では、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力を高めることができたかを

事前・事後テスト、事前・事後アンケート、思考ツールを用いたワークシートから検証する。

(1) 知覚・感受したことを基に、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて解釈することができたか ア 事前・事後テストの分析

表5に事前・事後テストの判断基準、図3に事前・事後テストの結果を示す。

表5 事前・事後テスト判断基準

評価	基 準
A	①選択肢の中から言葉を選択している。 ②総合的な芸術と音楽について触れた記述がある。 ③音楽の特徴を挙げながら、他の芸術と音楽のかかわりが説明されている。 ④内容が明確である。
B	①選択肢の中から言葉を選択している。 ②総合的な芸術と音楽について触れた記述がある。 ③音楽の特徴を挙げながら、他の芸術と音楽のかかわりが説明されている。 ④内容が妥当である。
C	①選択肢の中から言葉の一つを選んでいいる。 ②総合的な芸術と音楽について触れた記述がある。 ③他の芸術と音楽のかかわりについての説明が妥当性に欠けている。

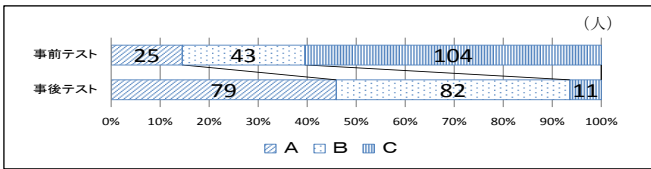


図3 事前・事後テストの結果

事前テストでは、全ての生徒が選択肢から言葉の一つ選んでいた。しかし、音楽の特徴とのかかわりについて述べられていないことや、選択した言葉についての記述になっていない生徒(C評価)が60.5%であった。事後テストでは、授業で学習したことを基に、音楽の特徴を具体的に挙げながら、他の芸術とのかかわりについて説明できた生徒(A評価とB評価を合わせた数)が39.5%から93.6%に増えた。また、総合芸術における音楽と他の芸術が相互に与える効果について明記している生徒も増加していた。

図4に、事前テストC評価から事後テストA評価になった生徒の記述を示す。

【事前テスト C評価】 演劇とかかわっています。その国独特な雰囲気や動く美術のように感じました。日本の曲は、日本らしさを音楽で表現していました。
【事後テスト A評価】 総合芸術は、音楽と演劇とのかかわりが大きいと思いました。登場人物の心情や物語の展開によって、曲調を変えたり、テンポやリズムを変化させることで、より登場人物の心情を伝わりやすくなりました。例えば、オペラでは、悲しい気持ちのときは、暗く、ゆっくりした音楽に、うれしいときは、明るく、速い音楽にしたりします。歌舞伎では、見得を使って迫力を出し、音が少ないのでリズムに変化をつけたりして勇ましさなど表現しています。音楽と演劇がかかわりをもつことで、お互いのよさを引き立て合っているのだと思いました。
※実線 () は、選択した言葉、点線 (.....) は、音楽の特徴、波線 (~~~~~) は、他の芸術

図4 事前・事後テストの生徒の記述内容

C評価（6％）の生徒については、音楽の特徴を具体的に挙げてないため妥当性に欠ける説明となっていた。事後テスト後、C評価生徒との面接の中で、「どのような記述をすればよいのか迷った。」という生徒の返答があり、記述の仕方の説明が不十分であったと考える。

事前・事後テストについて、有意水準1％片側検定でt検定を行ったところ、事前と事後に有意な差があることが明らかになった。

イ 事前・事後アンケートの分析

図5にアンケートを基に、授業前後の生徒の意識の変化を示す。

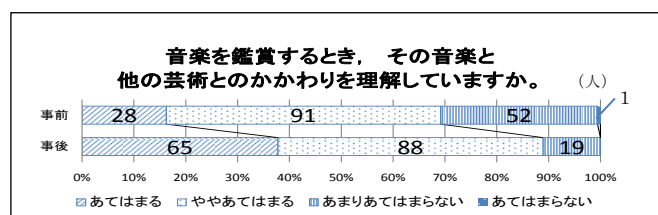


図5 事前・事後アンケートの結果

事前アンケートでは、肯定的に回答した生徒は69.2％であり、否定的に回答した生徒は、30.8％であった。事後アンケートでは、肯定的に回答した生徒は89.0％に増加し、否定的に回答した生徒は、11.0％に減少した。多くの生徒が、音楽の特徴と他の芸術とのかかわりを理解できた実感することができたといえる。

ウ 思考ツールを用いたワークシートの分析

表4に基づき分析した結果、「エ」に解釈したことを言葉で表すことができていた生徒は、88.9％であった。次ページ図7は、生徒aが思考ツールを用いたワークシートに記述した内容を示したものである。生徒aは、感じ取ったこととして「ア」に「迫力・緊張感・圧迫」と記述している。また、「イ」には、「ア」の理由として「だんだん強くなる」（強弱）と気付いたことを記述している。さらに、「ウ」には、他の芸術の要素について「弁慶、富樫が互いににらみ合う」（演劇）と記述し、矢印を使って旋律、強弱、速度と結び付けている。「エ」には、「弁慶と富樫がにらみ合う場面では、伴奏が強くなると速度も速くなり、動きはゆっくりだが、大きな足音や表情で迫力や緊迫感を表しています。」と、「ア」「イ」「ウ」を関連付けながら音楽の特徴と他の芸術を具体的に挙げ、解釈したことを自分なりの言葉で表している。

なお、「エ」について、解釈したことを言葉で表

すことができていなかった生徒は11.9％であった。これらの生徒は、要素と下位内容を羅列した記述に留まっていた。第一次において、「ア」「イ」「ウ」それぞれの要素についての因果関係や関連性の理解が十分でなかったため、「エ」に解釈したことを言葉で表すことができなかったと考える。

これらのことから、歌舞伎「勧進帳」の鑑賞における思考ツールを取り入れた学習活動を通して、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて解釈することがおおむねできたといえる。

(2) 根拠をもって価値判断する批評ができたか

表6に、思考ツールを用いたワークシートの批評文「オ」における判断基準、図6に生徒の批評文を評価した結果を示す。

表6 歌舞伎「勧進帳」の批評文の判断基準

評価	判断基準
A	①感じ取ったこと、気付いたこと（複数の要素）を他の芸術と関連付け、具体的に自分の言葉で説明できている。 ②①を根拠に、自分の解釈や価値について記述している。 ③歌舞伎のよさや魅力について自分の考えを記述している。
B	①感じ取ったこと、気付いたことを他の芸術と関連付け、具体的に自分の言葉で説明できている。 ②①を根拠に、自分の解釈や価値について記述している。
C	①感じ取ったこと、気付いたことを他の芸術と関連付けた記述をしている。

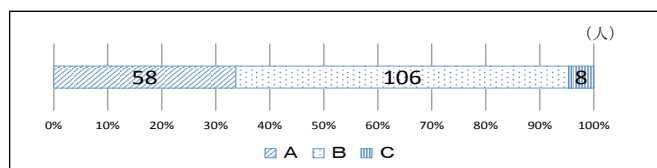


図6 歌舞伎「勧進帳」の批評文の結果

批評文において、生徒全員が感じ取ったこと、気付いたことを他の芸術と関連付けた記述をしていた。次ページ図7に生徒aの批評文を示す。生徒aは、音楽の特徴と他の芸術が相互に生み出す効果について「動きだけではつかみにくい、焦りや緊張感といった感情も音楽と合わせることでより伝わってくる。」と記述している。また、価値判断したことについて「弁慶と富樫が対立し、にらみ合う場面がとても迫力があり面白い。」と記述し、感じ取ったことや気付いたことと他の芸術とのかかわりについて根拠をもって具体的に説明している。

これらのことから、根拠をもって価値判断する批評がおおむねできたといえる。

以上、事前・事後テスト、事前・事後アンケート、思考ツールを用いたワークシートから、生徒は音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力が高まったといえる。

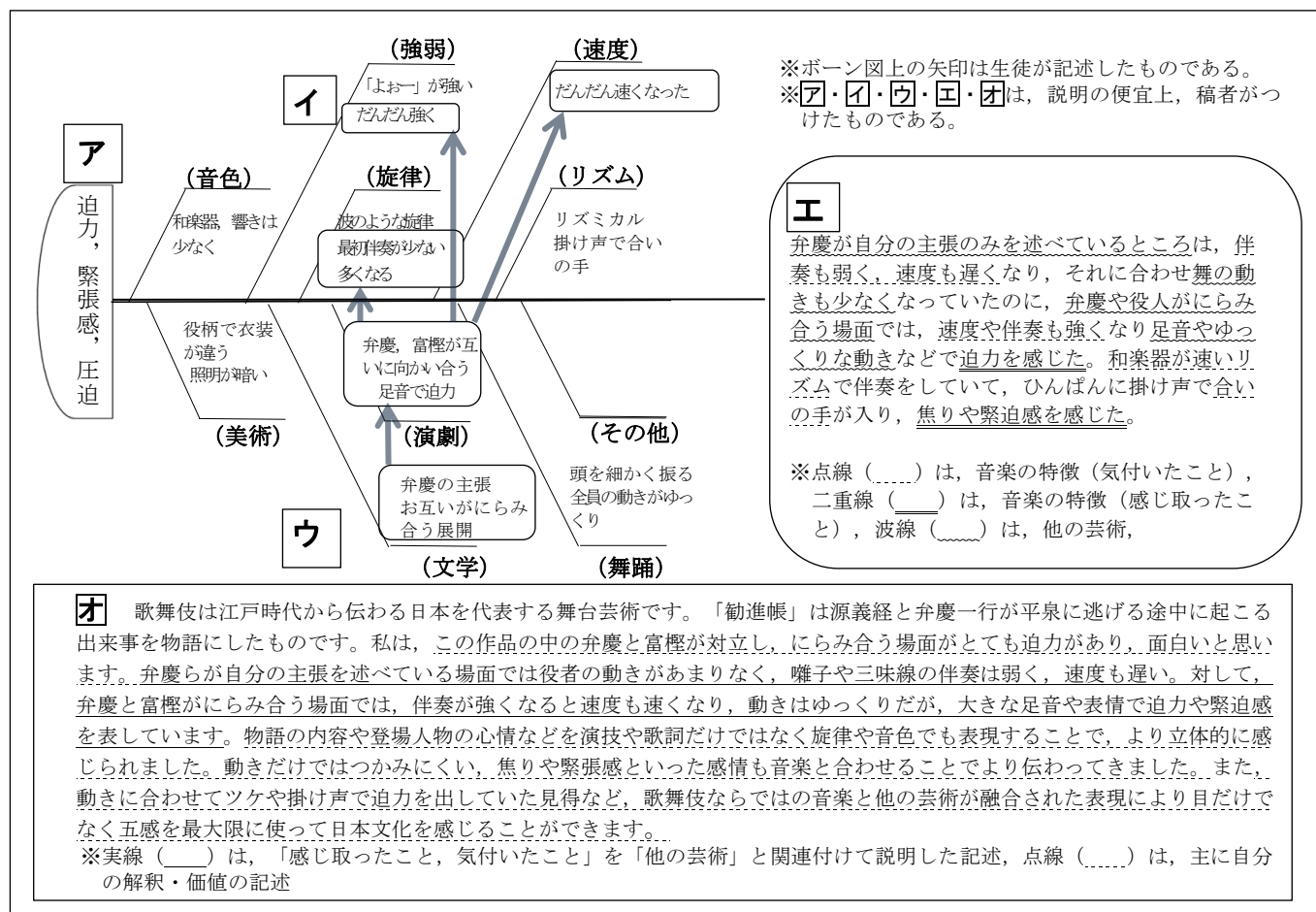


図7 生徒aの思考ツール記入内容

2 感じ取ったことや気付いたことを整理する思考ツールを取り入れた学習活動が有効であったか

図8に事後アンケートの分析結果を示す。

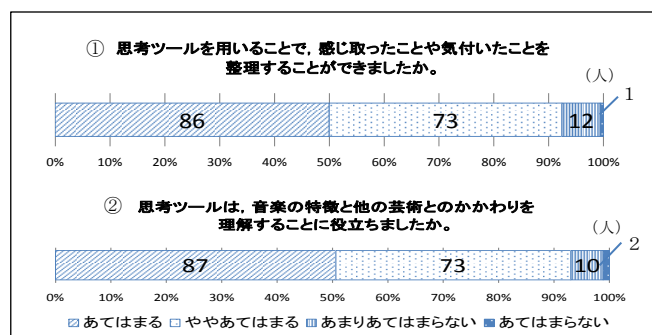


図8 事後アンケートの結果

設問①について、肯定的に捉えた生徒は、92.4%であり、否定的に捉えた生徒は、7.6%であった。

設問②について肯定的に捉えた生徒は、93.0%であり、否定的に捉えた生徒は、7.0%であった。

図9に設問①、図10に設問②について肯定的に捉えた生徒の記述を示す。

- ・感じたことはいっぱいあるけれど、何をどのように伝えたらいいのかわからないことが多かったが、思考ツールで、頭の中を整理することができた。
- ・いつも整理しないからごちゃごちゃするけど、思考ツールを使って整理すると、頭に入りやすい。
- ・感じ取ったことや気付いたことを箇条書きで書け、見たときに音楽の特徴が分かった。

図9 思考ツールを用いることで感じ取ったことや気付いたことを整理することができた理由

- ・思考ツールに書いて整理することで、演劇がこうなったときに、音楽の特徴はこんな風になっていたとかかわりを見付けやすかった。
- ・つながりがあるところを矢印でつなげることで、バラバラだった要素がつながっていき、音楽全体をとらえることができた。
- ・音楽の関係性が思考ツールでは見えていき、何がどうかわっているかが分かりやすかった。意見をまとめるのがうまい方ではないので、思考ツールは本当に便利だった。
- ・自分が感じ取ったことを、短く書くことによって、なぜ自分はこう思ったのかという根拠となり、より分かりやすい紹介文になった。

図10 思考ツールが音楽の特徴と他の芸術とのかかわりを理解することに役立った理由

生徒の記述から、思考ツールを取り入れることで感じ取ったことや気付いたことを整理することができ、視覚的に捉えることで音楽の特徴を理解していることが確認できる。また、音楽の特徴を他の芸術と関連付け、根拠をもって価値判断することができ、さらに音楽全体を捉えることができたと考える。

生徒は、感じ取ったことや気付いたことを整理する思考ツールを取り入れた学習活動が、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞することに有効だと実感しているといえる。

なお、設問①②で否定的に捉えた生徒全員は、批評文、事後テストにおいてB評価であった。これらの生徒は、「思考ツールの使い方は分かるが、どのようなことを記入すればよいのか分からなかった。」と事後アンケートに記述していた。記入方法についての指導が十分でなかったため、より具体的に示すなど丁寧な指導を行っていくことが必要であったと考える。

以上のことから、感じ取ったことや気付いたことを整理する思考ツールを取り入れた学習活動は、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞することに有効であったといえる。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

中学校音楽科の鑑賞の指導において、感じ取ったことや気付いたことを整理する思考ツールを取り入れた学習活動は、音楽の特徴を他の芸術と関連付けて理解し鑑賞する能力を高めることができた。

2 今後の課題

- 研究授業では、音楽の特徴を捉える活動において、強弱と速度のみに着目している生徒がいた。音楽を形づくっている要素についての理解を深め、様々な要素から音楽を捉えられるような指導を工夫していく必要がある。
- 音楽のよさや美しさを感じ取る力を高めていくために、感じ取ったことや気付いたことの両者について関連を図り、解釈したことなどを言葉で表す学習指導を継続して行うことが必要である。

【注】

- (1) 萬司(2009)：『中学校新学習指導要領の展開音楽編』明治図書 p. 76, 100 を参照されたい。
- (2) 西園芳信・伊野義博(2010)：『中学校教育課程講座音楽』

ぎょうせい p. 92を参照されたい。

- (3) 萬司(2009)：前掲書 p. 76を参照されたい。
- (4) 宮下俊也(2013)：『最新 中等科音楽教育法[改訂版]』音楽之友社 p. 37を参照されたい。
- (5) 西園芳信(2009)：『中学校音楽科の授業と学力育成一生成の原理による授業デザイナー』廣済堂あかつき p. 51を参照されたい。
- (6) 小原光一(2003)：『小学校の音楽鑑賞よく分かる指導のポイント』(財)音楽鑑賞教育振興会 p. 8を参照されたい。
- (7) 大熊信彦・東良雅人・加藤泰弘(平成25年)：「中学校・高等学校の指導内容等の関連と実践課題」『中等教育資料 4月号』ぎょうせい p. 41を参照されたい。
- (8) 大熊信彦(平成17年)：「音楽教育における学力をどうとらえるか」『中等教育資料 11月号』ぎょうせい pp. 52-53を参照されたい。
- (9) 3曲を選択した理由は、3曲が「解説」と使用教科書に例示・掲載されていること、オペラ・歌舞伎は西洋と我が国を代表する総合芸術として共通点が多い、オペラ・バレエは台詞の有無と舞踊の重要性が比較できることからである。
- (10) 西園芳信・伊野義博(2010)：前掲書 p. 138 を参照されたい。

【引用文献】

- 1) 国立教育政策研究所(平成22年)：『特定の課題に関する調査(中学校音楽)調査結果』p. 217
- 2) 国立教育政策研究所(平成22年)：前掲書 pp. 217-218
- 3) 小原光一・渡邊學而(平成20年)：『音楽鑑賞の指導法“再発見”』(財)音楽鑑賞教育振興会編 p. 103
- 4) 萬司(2009)：『中学校新学習指導要領の展開』明治図書 p. 76
- 5) 文部科学省(平成20年)：『中学校学習指導要領解説音楽編』教育芸術社 p. 52
- 6) 大熊信彦(平成22年)：「音楽教育における学力をどうとらえるか」『中等教育資料 12月号』ぎょうせい p. 57
- 7) 三宅喜久子(2013)：『思考ツール 関大初等部式思考力育成法<実践編>』さくら社 p. 15
- 8) 黒上晴夫(2012)：「探究の価値を、今、改めて考える」『初等教育資料 2月号』東洋館出版社 p. 76
- 9) 北村拓也(2011)：「シンキング・ツールを活用した国語力を高める授業づくり」『滋賀大学教育学部附属中学校研究紀要 第53集』p. 321

【参考文献】

- 小原光一・川池聡(平成23年)：『よくわかる！鑑賞領域の指導と評価 体験してみよう！実践してみよう！これからの鑑賞の授業』(財)音楽鑑賞教育振興会編